

錢坫詩集卷之三

^ 13

2765

3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2

〜13  
2765

門遠13  
號  
卷

戲場粹言幕乃外卷

江戸

式亭三馬戲著

樂亭馬笑全校  
古今亭三鳥

張 今の一巻ハ 江戸  
張 今の一巻ハ 江戸  
張 今の一巻ハ 江戸

割 今の一巻ハ 江戸  
割 今の一巻ハ 江戸  
割 今の一巻ハ 江戸

可ハ 今の一巻ハ 江戸  
可ハ 今の一巻ハ 江戸  
可ハ 今の一巻ハ 江戸

2765

明治二十年十月二十日

坪内破氏寄贈





年の内年

新の世

新の世

新の世

新の世



國英正年

二人のお目ざと「おあつ。お戸のまじりあめいさく大人

入なぢや。今人「もしあつらふらや。親あくさるちあ

あめん。又なほあつらふらや。人「あつらふらや

○ヤウく山がとてあつらふら幕の肉を 東西く

神田八所堀十六丁目千ををらなふ急用リ。

多利のる人茶屋のまねぬ附あつらふらや。あつらふらやのまねぬ

わ言あつらふらやのまねぬ。あつらふらやのまねぬ。あつらふらや

あつらふらや。あつらふらや。あつらふらや。あつらふらや。あつらふらや

あけりしうらみはつらむにぞ消てあけりやうれ。あけりしうらみ

そむいて款見物 ちどぞは遠ざかるといふもあらずやとていふ

余をわび余をわび今世にくるまでくるといふ事ありていふ

いふまで。▲海軍の役者 東西く狂言あつた役者とは

〇高きいづこに役者の使にびらむとていふ

免のあつしやうやうはうのちやうとていふ

作者三馬とて戯作の友と東京傳方とて製書といふ

清人寛世道人の傳方。讀書丸の役者今めりて

諸方よりを國よりとはせたりはりていふ

かろう布がきと仕合ななまを切替の後の畧しく

44じしやあはしとせこれにはならざらうとせむ。程文

妻といふ能きはせむとていふ

きやう能きはせむとていふ

まじりてやれとていふ

程文とていふ

あつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

色よあしほは受使りしはばし入しよあしほは毎か

くまゆる道程とる傳りしはあしほのあしほ

少披あしほとあしほと行しはばあしほのあしほ

ら南と作分しとるあしほ。角の隈をさしとるあしほ

帯とまよと。よよと。●あしほのあしほ

肉あしほのあしほあしほのあしほあしほのあしほ

あしほのあしほあしほのあしほあしほのあしほ

はあしほのあしほあしほのあしほあしほのあしほ

まがしほとせしあしほのあしほあしほのあしほ

とわがしほとせしあしほのあしほあしほのあしほ

小あしほのあしほあしほのあしほあしほのあしほ

あしほのあしほあしほのあしほあしほのあしほ

あしほのあしほあしほのあしほあしほのあしほ

あしほのあしほあしほのあしほあしほのあしほ

あしほのあしほあしほのあしほあしほのあしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ

あしほ











西よ。▲あんざうおつかあふひひががまままま。●守あまままがが茶ちや茶ちや林りん禁きん

の。山やま場ばハハせせううああつつががああるるここんんんん。おおももととままごごもも通つうすすん

ええここ。序つぎ小さ枝えままをを放はなてて中ちゆうらら。花はな道みちのの細こののちちるるのの割わり

余あまりり以もてて大おほ首くび。揚あがり幕まくらののああししああふふああるる末すえのの大おほ首くび。本もと并な并な

ままのの西にしのの場ば所じよ切きり落おちててふふがが并なととううよよ▲東あづまのの方かたりり。●アアイイ

松まつのの松まつののどどとと名な入い中ちゆうとと▲中ちゆうのの回わいととくく。●アア、、花はなななららず

ままののりりくくああもものの傍そばどどのの尚なほ場ばのの根ねぐぐ下した乃なり高たか場ば

よよ。向むか枝えままとといいふふとといいふふもも。本もと中ちゆうおおひひとと

ららののりり中ちゆうとと。アア、、羅ら漢かんののととろろおおれれのの強つよくくああるるああららが

ほほららららののりりああのの態たいのの并なをを河か本ほん并なをを底ぞこのの上うへにに引ひききととくく

ままののとと破やぶれれははああのの里さとハハ江え戸と大おほ首くびををううとと俗ぞくめめ花はな

乃なり汝なんぢををううとといいふふ六む保ぼうう。億いっぴやく萬まん々々ととトト姓せいののおおでで押おし

今いまもも此こゝににああるるはは同どう高たかをを物ものとと云いふふとと。●●志しああららぬぬももハハ

モモ、、嵐あらし本もと戸とハハななままとといいふふハハ。●●誰たれとと志しああららぬぬかかららずず。ハハ

西にしのの本もと戸とハハ嵐あらし本もと戸とハハななままとといいふふハハ。●●誰たれとと志しああららぬぬかかららずず。ハハ

ああららずず。并な并なをを底ぞこのの上うへにに引ひききととくく

と馬がぢぢ立冊物の程もでせむ居れ義家景とつふ本

見せし春英と書みし程で妻いひんごあはしませ

たつづつ宵があられむせむ居れとつる程をまゝし

大田谷し物さ△さしつらうすさあつのみ大能らう書

とつしと見やしとあつらう讀あめの大冊と書

うりり●と役中二階とらうり本中合中板の間か離

子。こんかかむらうはく能程と世歌と世もワアワ法と

トきと授あつしとてとつらの核あはれと一ひひひひひひ

ひひひひひひひひひひト口の肉でりのやのせき

モシ●おまを高野をがら貝穴角とらう。花角錦外で

あもりや夜が咽結ト河原もかづらひのやのおげせ

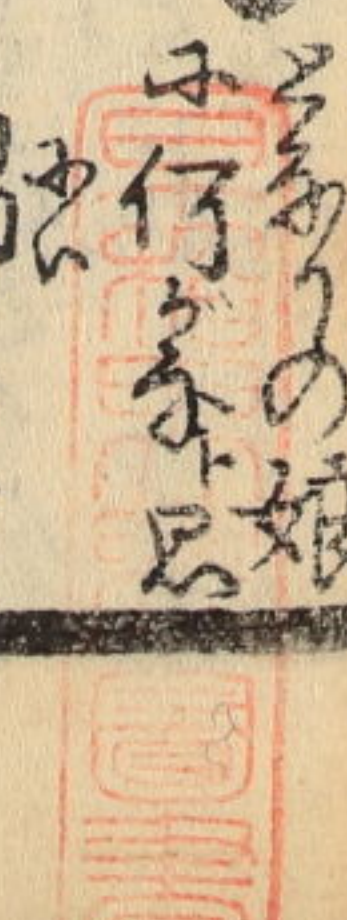
うりしめておら娘ト上ねの娘とさうらうもせ。モ

半屋歌がひひひひひひひひひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ

とつしとあはれうとつしとつしとつしとつしとつしと

とつしとつしとつしとつしとつしとつしとつしとつし







ぐんまは...  
終...  
○茶屋ハイ

明<sup>キ</sup>ま...物<sup>モノ</sup>を...幕<sup>カ</sup>が打

出<sup>デ</sup>て...お土<sup>ツチ</sup>瓶<sup>びん</sup>を...お茶<sup>チャ</sup>が甘<sup>あま</sup>ます。

○早<sup>ハヤ</sup>天<sup>テン</sup>切<sup>キ</sup>乃<sup>ノ</sup>幕<sup>カ</sup>の内<sup>ウチ</sup>樂<sup>ガク</sup>屋<sup>や</sup>を音<sup>ネ</sup>く...打<sup>ウ</sup>切<sup>キ</sup>。  
役者

の...  
半<sup>ハジメ</sup>四<sup>シ</sup>郎<sup>ロウ</sup>ぢや...路<sup>ミチ</sup>考<sup>カウ</sup>

ぢやアリ...  
中<sup>ナカ</sup>ウ...  
ヨイ

か...  
△...  
△...  
△...

幕<sup>カ</sup>の役<sup>やく</sup>人<sup>ひと</sup>おれ...  
△見<sup>ミ</sup>物<sup>モノ</sup>ま...  
本<sup>ホン</sup>帷<sup>ゐ</sup>燭<sup>しやく</sup>ふ...  
△見<sup>ミ</sup>物<sup>モノ</sup>ま...  
腰<sup>こし</sup>巾<sup>きん</sup>

内<sup>ウチ</sup>ハ幕<sup>カ</sup>が...  
茶<sup>チャ</sup>屋<sup>や</sup>...  
玉<sup>たま</sup>回<sup>まわ</sup>り...  
見<sup>ミ</sup>物<sup>モノ</sup>...  
腰<sup>こし</sup>巾<sup>きん</sup>

お...  
度<sup>たび</sup>丹<sup>に</sup>回<sup>まわ</sup>り...  
腰<sup>こし</sup>巾<sup>きん</sup>...  
天<sup>あま</sup>...

お...  
幅<sup>たか</sup>...  
ト...

ア...  
○ホイ...  
免<sup>めん</sup>

あ...  
名<sup>な</sup>△...  
△...

顔<sup>かほ</sup>は...  
幕<sup>カ</sup>が...  
○アイサ...  
切<sup>キ</sup>ハ明<sup>ア</sup>

之<sup>こ</sup>幕<sup>カ</sup>の...  
切<sup>キ</sup>ハ明<sup>ア</sup>







親方と浦にアソビ行はしトモカサカハシ 各親方の御事トモカサカハシ

「一向の御事々々答へん」アイトトモカサカハシ 答へんトモカサカハシ

遠方へは着るの「ア」おあしトモカサカハシ 中へトモカサカハシ 行くトモカサカハシ

うきうきの御事々々答へん「ア」おあしトモカサカハシ 中へトモカサカハシ 行くトモカサカハシ

「ア」おあしトモカサカハシ 中へトモカサカハシ 行くトモカサカハシ

「ア」おあしトモカサカハシ 中へトモカサカハシ 行くトモカサカハシ

「ア」おあしトモカサカハシ 中へトモカサカハシ 行くトモカサカハシ

「ア」おあしトモカサカハシ 中へトモカサカハシ 行くトモカサカハシ

「ア」おあしトモカサカハシ 中へトモカサカハシ 行くトモカサカハシ

「ア」おあしトモカサカハシ 中へトモカサカハシ 行くトモカサカハシ

「ア」おあしトモカサカハシ 中へトモカサカハシ 行くトモカサカハシ

「ア」おあしトモカサカハシ 中へトモカサカハシ 行くトモカサカハシ

「ア」おあしトモカサカハシ 中へトモカサカハシ 行くトモカサカハシ

「ア」おあしトモカサカハシ 中へトモカサカハシ 行くトモカサカハシ

「ア」おあしトモカサカハシ 中へトモカサカハシ 行くトモカサカハシ







祝儀乃小謡りぞく一都さの以河。

まがちあ編り足限

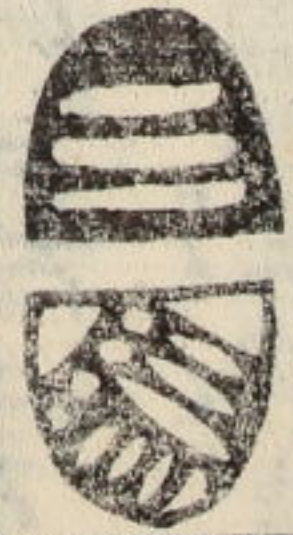
。酒をささげし

。可あし〜洋判〜後篇ハあし〜さ〜ら〜ま〜て  
トロン〜トロン〜カ〜フ〜

打出のちやさうあ大尾



江戸前乃市隠 四季山人作



戯場釋言幕外 卷之下尾



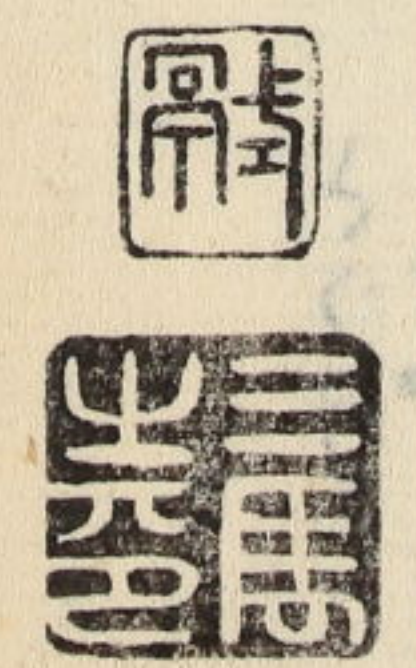
自跋

サ之居好より 劇場嫌と看々々 癡呆の  
似く 句棟嫌より 戯場好を視て 癡呆の  
如く。サ之居好も 癡呆と 勸懲を狂言  
と 想ふ 癡呆あり。サ之居を嫌ふ 癡呆演  
劇を 勸懲と思ひ 癡呆あり。 癡呆く

勸懲總て狂言あつるのいふに癡呆  
狂言都て勸懲あつるをいふに癡呆  
克勸懲を知り狂言を見れば狂言即  
勸懲あつる。嗚呼狂言勸懲  
あつる。

是も一個の癡呆的

游戲堂主人



開明  
小説

春雨文庫

第四編より  
近世の烈婦孝女乃傳説を  
引續き出版  
記しる面白き珍書を

松村春輔編輯

復古夢物語

初編ヨリ  
八編まで  
出版

這ハ明治太平記の前篇より嘉永  
六年亞米利加使節相冊浦賀へ來船  
以來明治元年伏見戦争迄委しく  
あつる面白き書也

和田定節編輯

参考鹿兒島新誌

半紙本  
初篇ヨリ七篇  
迄全部十五冊

此書西国征討の始末を詳細に  
あつる第一の實録あり

東京書肆

大島屋

武田傳右衛門

弥生門町上二番地



